

## 辰年に想う

2012年がスタートした。“登竜門”ではないが、野田首相は年頭所感で「日本再生の最初の年」と位置づけ、震災からの復興や社会保障と税の一体改革、TPP交渉などを進める構えだ。

ただ、“画竜点睛”などという局面でないことは明らかである。

民主党が政権交代を果たしてから3年目、首相にして鳩山氏から3代目の現在のところは“竜頭蛇尾”の状況であり、当初掲げてきた目玉政策も相次いで変更されるなど、政権交代が日本に活力をもたらしてきたとは言い難い。

もはや“竜馬の躓き”との言い訳が許される状況ではない。

これまで、内政も外交も多数の利害関係者の顔色をうかがいながら“竜の鬣を撫で虎の尾を踏む”ことを恐れてきたことで、“虎口を逃れて竜穴に入る”ばかりで、結果、企業や人々の閉塞感を増幅させることとなってしまった。

設備投資が盛り上がらないのは、円高や貿易交渉、エネルギーの安定供給の問題だけではない。また、消費が増えないのも、雇用や所得が回復しないからだけではない。政治の混乱、政策の迷走、毅然としたリーダーシップの欠如が大きく影響している。

自らをどじょうに例えた野田氏だが、“竜の鬣を蟻が狙う”わけでもないだろう。印象は良いかもしれないが、一国の首相という立場で、謙遜も度が過ぎると国民にとって結果的に不利益となる。

2012年は日本の再生に向けた強い信念と行動力が求められる。そして、内外に対する政策の説明と着実な実行によって政治の信頼も取り戻し、多くの人々が“竜の雲を得たるが如し”の再生、成長を実感できる年としなければならない。

21世紀はアジアの時代である。“竜虎相打つ”ように切磋琢磨していくのは米中ではなく、日中である。そして、よき競争相手として互いが成長し、またその成長を率先して世界の発展や人々の幸福のためにつなげていくことが日本の役割である。明治維新ののち、百数十年にわたってさまざまな変革を進めてきた日本なら、実現できるはずだ。

(大和)

**社会保障と税制、細部まで目を行き届かせた議論が重要**

新年早々の1月6日、閣議において「社会保障・税一体改革素案」が報告された。いうまでもなく、社会保障や税制の改革はこれからの日本社会においても、また持続可能な制度にする意味においても不可欠である。しかし、その中身に対する賛否はまた別である。往々にして総論賛成各論反対となる所以であろう。

今回の改革案では多くの対策が含まれている。たとえば、社会保障に関するだけでも幼保一体化、医師確保対策、短時間労働者に対する被用者保険の適用拡大、年金制度の最低保障機能の強化として低所得者への加算や受給資格期間の短縮、物価スライド特例部分の解消、マクロ経済スライドの再検討、被用者年金の一元化、第3号被保険者制度の見直し、貧困化対策など、数多くの項目が挙げられる。

一方、税制については消費税の社会保障財源化に向けた消費税率の引き上げが最大の焦点となっているが、個人所得税、金融所得税、個人住民税、法人課税、資産課税、その他地方税など多岐にわたる。そして、その多くが負担増をとまなう内容となっている。

しかし、問題はこれらをどのタイミングで実施するか、また国民の理解を得るためにどのように説明するかにある。今回の改革案では消費税は2回に分けて引き上げる工程となっているが、1989年の消費税導入や1997年の消費税率引き上げは1回での実施だった。企業からは「1回で引き上げられた方が取引先に転嫁の理解を得やすい」という声も聞かれるなど、いかに適正な転嫁を可能とするかが大きな課題となるだろう。ただ、適正転嫁などへの取組は4行程度の本文と【別紙】で触れられているだけであり、必ずしも十分な内容とは言いがたい。“神は細部に宿る”である。社会保障や税制の改革が必要なことは多くの人が認識しているだけに、経済・社会への影響を踏まえるためにも細部まで目を行き届かせた議論が何よりも重要である。

(なんとか王子)

### ステルスマーケティングから考える情報の意味

ステルスマーケティングとは消費者に宣伝と気付かれないように宣伝行為を行うマーケティングのことである。インターネット上では通常ステマと略されて使用されている。

2012年1月5日、消費者庁は飲食店のランキングサイト「食べログ」における「やらせ業者」発覚をうけ、景品表示法（不当表示）に抵触する可能性がないか情報収集などの調査を始めた。同サイトの月間利用者数は3,251万人（2011年12月末現在）で、飲食店を利用したユーザーの口コミを基に飲食店の人気ランキングを掲載している。このため同サービスで上位にランキングされることは飲食店にとって売り上げを大きく左右する存在となっている。問題となった「やらせ」はマーケティング業者などが、飲食店に対し「食べログ」のランキングを上昇させることを目的に口コミ情報の登録を有料で行っていたことであった。「食べログ」を運営する価格コムによると不正を行っていた業者数は2011年12月時点で39社を把握しており、現在は業者に対する警告や恣意的なランキング操作を排除するためのアルゴリズムの変更を行ったとしている。

古参のインターネットユーザーの間では、インターネット上の巨大掲示板に対する投稿や検索エンジンの検索結果を利用した口コミマーケティングなどを悪用し商品やサービスに対する恣意的な情報提供を行うステマが存在していることは古くから知られていた。

しかし、この手の問題はインターネットが広く利用される前から存在している。従来から一部で行われていた新製品の販売や新装開店でサクラを使うことや、やらせが発覚したタウンミーティングなどによる世論形成なども広義ではステマに当たるといえよう。

今回の問題は、我々が商品やサービスの購入時にランキングや口コミを大きな指標としていることの証左になったのではないだろうか。口コミやランキングといった情報の収集はインターネットが広く利用される前は、多くの手間と費用を費やし専門誌などのメディアがサービスとして提供していた。しかし、インターネットの出現により大量の情報を収集、集計しランキングを作成することができるようになり多くのサービスが短期間に誕生した。そして、多くの人が自分の嗜好にあった情報の取得をインターネットで行うようになっていた。そんななかで、自分たちが信じている指標がステマによって不正に作成されていたことが明るみとなり、大きなショックとして認識された。

しかし、先ほども述べたようにインターネットが存在する前からステマは存在している。今回の問題は我々に、「情報は恣意的に作られたり、間違いがある可能性がある」と疑ったうえで利用する重要性を投げかけているのではないだろうか。

なお、ステマの多くは短期的には成功することはあるかもしれないが、多くは発覚しサービスや商品のブランドを長期的に大きく落とすことにつながる例が多い。優良な情報の醸成には手間と費用をいとわないことが重要であろう。

(きりん)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

## TDB 景気座談会の御礼

全国各地を回る景気座談会が終了し、全国 7 箇所（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡）の景況感を実際にうかがうことができました。ご出席頂きました皆様、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

私が行った地域のなかでも特に印象に残ったのは仙台的建設業の方のお話しでした。2011 年の東北は 3 月の東日本大震災を境にして激変の年でした。復旧・復興需要により人材や資材が不足しているという話のなかで、「復興需要の為だけに人材供給が求められているのではなく、長期的に国内産業を考えるうえで足りない」というご意見を頂きました。「いま、大工など建築に欠かせない技術者のメイン層は団塊の世代だが、技術者が次々と定年を迎えるなか、これまで建設不況が続いていたため、企業は新たに技術を受け継ぐ若者を雇うことが難しかった」というのです。もちろん、この影響は復興のスピードにも関連しており、12 月時点で 3 万戸以上の建物は修復が手つかずのまま冬を迎えると聞きました。

次世代の技術者が足りないのは建設関連のみの話ではないでしょう。他地域でも機械工が足りない、福祉従事者が足りないなどのご意見を頂いています。

若者が求める職業とこれからの日本が必要とする職業の溝を埋めなければ、これからの日本は強みである技術力を失い衰退へ向かう可能性が高まってしまいます。毎年学生の就職率が注目され、下がるごとに厳しさを感じてはいますが、業種に偏りがあることには、あまりフォーカスされないようです。

「がんばろう、日本！」。2011 年、あらゆるところで目に耳にしましたが、私たちができることは復興に携わることのみではなく、これからの日本を考えることも含まれています。

景気座談会にてうかがった 2012 年の見通しには、先行き厳しいご意見が多いなかでも、自社での対策や期待要因など明るいご意見も頂いています。将来を嘆くだけでなく、変えようとする企業の力強さに日本の光明を感じました。

なお、景気座談会の内容は 2 月に発刊する景気白書に掲載いたします。また、TDB 景気動向調査内で皆様から頂いた、2012 年の景気見通しに関するご意見も掲載いたしました。日頃より TDB 景気動向調査にお答え頂いているお客様に送付させていただきますので、ご覧頂ければ幸いです。

本年も皆様にとって有益となる情報を発信できるよう努めてまいります。今後とも、弊社および TDB 景気動向調査を何卒よろしくお願い申し上げます。

(小夏)

## 思い出のランドセルに

先日、買い物に行った際、ランドセル売り場を見かけた。1年経つのは早いと思うとともに懐かしい気持ちが蘇ってきた。自分がランドセルを買ってもらった日の事を20年近く経った今でも覚えている。そして、毎日ランドセルを背負って登校した6年間の思い出も。ランドセルほど長く使用した鞆はなかったかもしれない。

ランドセルが通学用鞆として用いられるようになったのは明治時代になってからだそうだ。はじめは背のうを元にした物が使われるようになり、背のうがオランダ語で「ランセル」と呼ばれていたことから、「ランドセル」という言葉が生まれた。その後、背負うことによって体の負担が軽減できる、両手が自由に使える、丈夫であるなどの理由から、小学生用として広く普及してきた。最近では赤・黒だけでなくカラフルなものや個性的な形のものなど、多様な製品が開発されている。

そんなランドセルを思い出とともにしまっておくこともできるが、活用する道もある。使用済みのランドセルをアフガニスタンやモンゴルの子どもたちへ贈る「ランドセルは海を越えて」キャンペーンが1月9日から受付をスタートした。また、「思い出のランドセルギフト」として、使われなくなったランドセルをアフガニスタンに寄贈し、特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立てる活動もある。子どもたちが学校で学び、読み書きができるようになることで、自分や家族の健康を守る知識や情報を身につけられるようになることを目指している。こちらは3月から受付を開始するそうだ。

昨年は震災後ボランティア活動が活発化するなど支援の輪が広がり、人との繋がりや思いやりがクローズアップされた1年でもあった。震災への関心が風化することの懸念もあったが、2012年に入っても被災地支援は続いている。日常の忙しさにかまけて忘れてしまうことのないよう、今年も人との繋がりを大切に、思いやりを持った行動をしようと思う。

(撫子)

### 放射性物質の基準値引き下げで厳しい見通し

わかさぎ釣りのシーズン真っ只中、関東のとある湖にわかさぎ釣りに出かけた。寒いなか半日以上も湖上で揺られながら釣り糸を垂れていたが釣果は今ひとつ。帰りに管理事務所に今日の釣果を聞くと昨シーズンの3分の1ぐらいとのこと。自身の腕をないがしろにして釣れない理由を聞くと、夏場が高温だったことでふ化が進まなかったことと、わかさぎの天敵であるブラックバスやブルーギルなどの外来魚が増加しているとのことであった。

また、お客さんが減っているということも嘆いていた。

道中の渋滞のため予約時間を過ぎての到着となった。例年であれば予約時間を過ぎたらキャンセル扱いとなり、予約のない当日客にボートが割り当てられるのだが、今回はその予約時間を過ぎても空きがあったことから納得できた。

釣果が少ないことによる釣り客の減少以外に、放射能汚染の問題もあるようだ。同湖も解禁前に放射能汚染の数値データを公表しており、調査結果にも影響のない数値がでているが、放射能に敏感になっている方も多いかもしいと付け加えていた。

財団法人食品流通構造改善促進機構がまとめている食品の放射能検査データをみると、わかさぎの放射能検査データ71件のうち、暫定規制値を超えているものが9件あった。

放射能の半減期は、放射性ヨウ素の8日間に比べ放射性セシウムは約30年間と長い。湖では、川や山からの流出入はあるが、海や川のように広く拡散することなく、ある程度、閉鎖されたなかで生態系が循環し営まれることになる。特にわかさぎなどの小魚類は、フライにして丸ごと食べることが多く、セシウムの体内への蓄積を懸念する釣り人もいるようだ。

厚生労働省は食品に含まれる放射性物質の基準値限度を2012年4月に現在の5分の1に引き下げ年間1ミリシーベルトと国際的な基準にすることを検討しており、食品の基準値はより厳しさを増すこととなる。農・林・水産業および関連する食品を扱う業界にとって、より厳しい1年となりそうだ。

(太公望)